

徳島県立博物館
第4期中期活動目標

令和元年9月26日

生涯学習社会の進展など、博物館を取り巻く状況の大きな変化を受け、博物館活動の基本である資料の収集・保存や調査研究、展覧、普及教育などの事業に加えて、学校教育の支援や社会貢献、博物館活動への県民参画など、新たな課題への取り組みが求められるようになってきました。その一方で、財政状況悪化による運営予算の削減、事業評価、および公的施設の運営の見直しなどもすすめられるようになってきました。

こうした状況の変化を踏まえ、徳島県立博物館では平成 16 年度以来、3 期 15 年間(第 1 期：平成 16～20 年度，第 2 期：21～25 年度，第 3 期：26～30 年度)にわたり，中期活動目標とそれにもとづく点検・評価を行いながら，事業の改善と活性化をすすめてきました。

ちょうど，第 1 期目標にもとづく活動が終わる 20 年度，博物館法の一部が改正され(20 年 6 月)，運営状況の評価と運営の改善に必要な措置を講ずるための努力義務が盛り込まれました。また，第 2 期目標にもとづく活動をすすめていた 23 年度には，文部科学省から「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示され(23 年 12 月)，博物館運営の点検・評価の実施とそれにもとづく改善，それらの内容の公表について努力するよう求められました。こうした法制面での動向からも，徳島県立博物館における中期活動目標の策定・運用は適切な取り組みとことができ，今後も継続的に推進することが必要だと考えられます。

近年では，社会教育施設である博物館の役割は広がりつつあり，観光や地方創生への貢献なども期待されています。だからこそ，地域に根差し，学術的な裏付けのある資料収集・保存や調査研究など，しっかりとした土台を保つことで，良質で多面的なサービスが実現できると考えます。

30 年度をもって第 3 期目標の期間が終了したことから，これまでの成果を踏まえながら，ここに第 4 期目標(平成 31・令和元～5 年度)をまとめました。

1 第 3 期中期活動目標の総括

中期活動目標にもとづく事業改善と活性化に取り組むようになった平成 16 年度以来，事業の目標が明確に可視化されるとともに，達成度が客観的に示されるようになり，事業の課題や問題点を明らかにすることができるようになりました。このような情報を共有することで，職員の意識改革をすすめ，利用者にとって満足度の高いサービスを提供できるよう努めてきました。

第 2 期活動目標では，第 1 期の経験を活かし，徳島県立博物館の基本理念および基本的性格^(注)を再確認しながら，「県民とともに」を基調とする博物館の使命(存在意義や役割)をまとめたうえで，個々の事業やその目標，評価指標を位置づけることにしました。

このように，使命と一体化した形で，事業の目指すべき方向を明確にしたのが第 2 期目標の特徴であり，これにあわせて評価指標などの見直しも行い，より丁寧な点検・評価をすすめることができました。ただ，基調とした「県民とともに」を推進するには，

さらに意識的な方向付けが必要と考えられ、課題を残しました。

そこで、第3期では、「県民とともに」を確かなものとするため、使命の再検討を重点的に行い、新たに「「連」県民とのつながりを大切にする博物館」を加えることで、博物館の発信力を強化して、県民とのコミュニケーションの充実に力を注ぐ方針を明確にすることとしました。また、これに伴い、事業区分を再編することにし、「県民協働・参画」を新たに設けることにしました。その他、各事業の目標や評価項目、指標等についても、実情を踏まえた点検・評価によって博物館活動のステップアップが図れるよう見直しました。

この「県民とともに」を基調とする活動路線は、ユニバーサルミュージアムへの各種の取り組み、公募型ボランティア、恐竜化石発掘調査、阿波木偶箱まわし調査などにおいて、一定の成果を挙げたといえます。しかしながら、これらの活動を含めた博物館活動全体について、県民のより一層の認識の深化という点において課題を残しました。

(注)

「徳島県立博物館の基本理念及び基本的性格」とは、「徳島県立博物館基本構想」(昭和59年1月)に示され、博物館の活動目標・指針となってきたものです。その内容は次のとおりです。

<基本理念>

①郷土に根ざし世界に広がる博物館

徳島の自然、歴史、文化の資料を総合的に展示し、全国的・世界的なかかわりについても理解できる施設

②開かれた博物館

博物館の活動に県民のだれでもが参加でき、楽しみながら学び、考え、豊かな知識を高めることのできる施設

③研究を大切にする博物館

学術的な調査研究、資料の収集を通して、常に新しい展示と情報を広く提供する施設

④文化財を守り自然の保全をめざす博物館

県民の貴重な文化的資料を永久に保管するとともに、文化財と自然の保護に努める施設

<基本的性格>

①人文科学(考古、歴史、民俗、美術〈近代美術を除く〉)・自然科学(動物、植物、地学)の両者が有機的に結びついた総合博物館とします。

②収集保存、調査研究、展示、普及教育の4つの機能を備え、本県の文化、学術、教育および生涯学習センターとしての役割を果たします。

③国内外の博物館、研究機関等と緊密な協力体制をとります。

また、文化の森総合公園に建設が予定されている民家資料展示場、植物園等の施設はもちろん、県内の博物館、博物館相当施設、類似施設等と相互協力し、その中核的博物館としての性格をもつものとしします。

2 第4期中期活動目標の策定の経緯

近年、当館を含めた博物館を取り巻く状況は予算の減少、少子高齢化、ユニバーサル化の推進、インバウンド対応、そして施設の老朽化と設備の長寿命化などの課題が重くのしかかり大きく変化してきています。加えて、当館は令和3（2021）年度のオープンを目標とする新常設展の構築に向けて、鋭意準備をすすめている状況です。このように第4期は、新たな時代を切り開いていくべき期間と言えます。

そこで、第4期中期活動目標の策定にあたっては、これまで3期15年間の活動を振り返り、新たな時代にふさわしい活動目標についての検討を行いました。その結果、これまでの「県民とともに」という路線を重視・継続し、さらにその深化を図るべく、見直しを行っていきました。

3 徳島県立博物館の使命

徳島の自然・歴史・文化の宝箱
—だれもがつどえ、楽しく学べる博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく体験と学びの場として、県民のみなさんとともに活動していきます。

「知」知と出会う博物館

博物館は徳島の自然、歴史、文化についての多様な資料やタイムリーな情報で、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

「探」地域の魅力を探る博物館

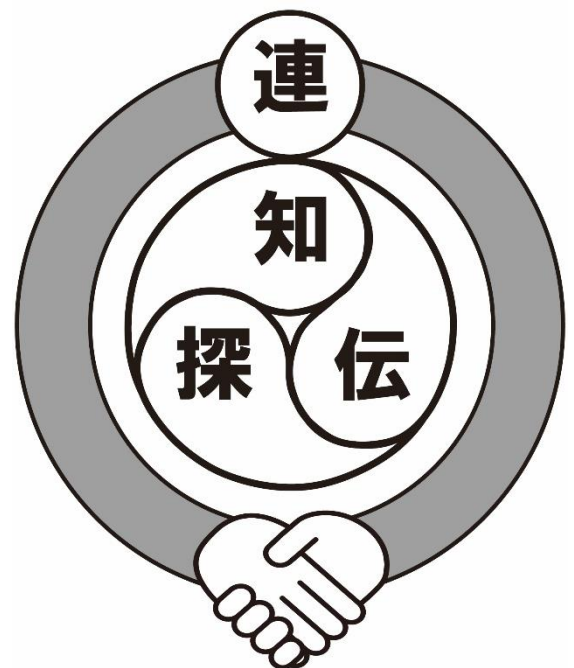
博物館は徳島の自然、歴史、文化について、県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけ発信します。

「伝」未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然、歴史、文化についての資料を、県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

「連」つながりを大切にし、だれもがつどえる博物館

博物館は、県民のみなさんと連携し、だれもがつどえる地域の拠点を目指します。



徳島の自然・歴史・文化の宝箱
—県民とともに成長する博物館—

「徳島県立博物館の使命」における要素間の関係

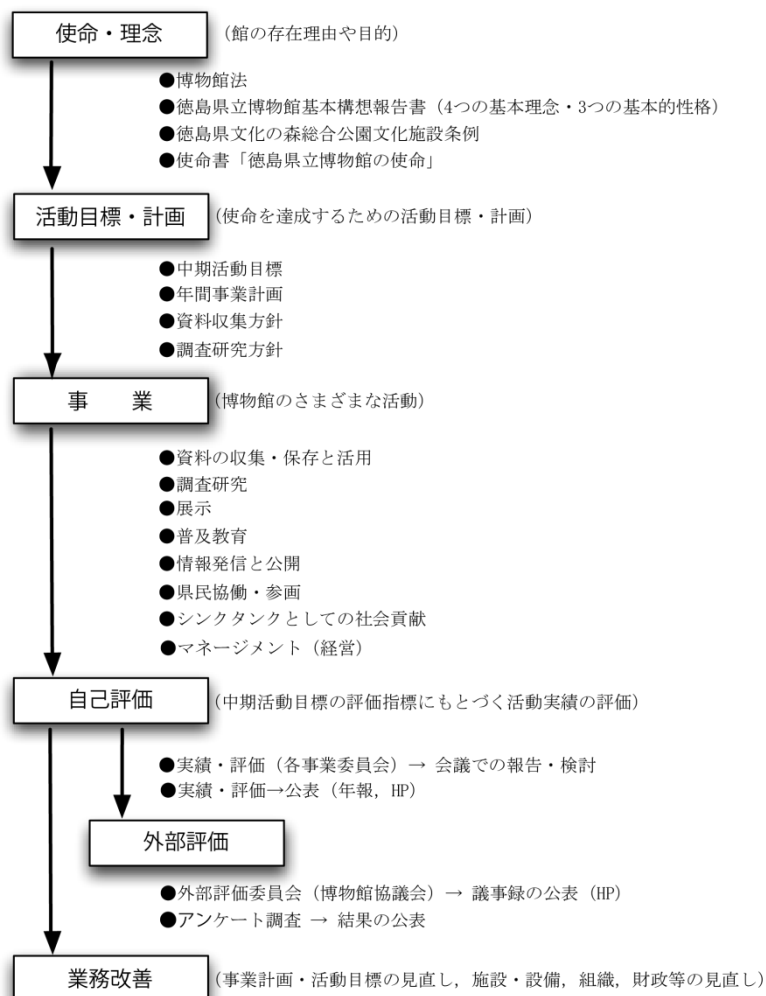
博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。

4 第4期中期活動目標の推進方法

中期活動目標とは、使命を実現するために、今後5年間（平成31・令和元～5年度）の活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに評価を行うとともに、事業改善につなげていくためのものです。その推進にあたっては次の点に留意します。

- ・中期活動目標は、博物館協議会に諮ったうえで公表します。
- ・それぞれの活動目標にもとづき、年度計画を立てて活動を推進します。
- ・年度末には活動実績の評価を行い、その結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させます。
- ・活動実績および評価の結果について博物館協議会で議論していただき、外部評価意見としてホームページに記載するとともに、出された意見を次年度以降の活動の改善に役立てます。
- ・活動目標と評価指標・目標値については毎年度見直しを行い、必要があればより適切な形に改めます。

中期活動目標の推進手順



5 事業別の中期活動目標と評価指標

徳島県立博物館の使命を実現するために行う事業は、次のとおりです。

- ・「知」知と出会う博物館：展示，普及教育
- ・「探」地域の魅力を探る博物館：調査研究
- ・「伝」未来にまもり伝える博物館：資料の収集・保存と活用
- ・「連」つながりを大切にし，だれもがとどえる博物館：情報の発信と公開，県民協働・参画，シンクタンクとしての社会貢献
- ・効率的でバランスのよい運営：マネージメント（経営）

以下では，事業ごとに中期活動目標の項目，評価指標および目標値などを示します。

(1) 展示

だれもが楽しく学べ、新しい発見や体験ができる場を創り出します。実物資料や最新の情報に基づき、県民のみなさんや関連機関との連携を大切にしながら、徳島および関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示します。第4期は、だれもが学び、発見し、体験できる場の新たな創出のため、常設展全面リニューアルに取り組みます。

(使命：「知」知と出会う博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
1-1 常設展リニューアルの実施	基本構想にもとづき、常設展のリニューアルを実施します。リニューアルにあたっては、実物資料(モノ)の魅力発信、フレキシブルな展示構成、ユニバーサル化推進、発見・参加体験の充実について重点的に取り組みます。	実物資料(モノ)の魅力発信に向けた取り組み	実物資料(モノ)の魅力発信できる展示の設計・実施・活用		※H31～R3年度の実施状況およびリニューアルオープン後の活用・改善状況等
		フレキシブルな展示構成に向けた取り組み	展示替えしやすき可変性のある展示の設計・実施・活用		
		ユニバーサル化推進に向けた取り組み	だれもが安心して利用できる空間の設計・整備・活用		
		映像・ハンズオン等の活用に向けた取り組み	高精細映像の制作と配置、ハンズオン展示の拡大と活用		
		新常設展のPRと活用に向けた取り組み	新常設展の広報・PRの充実とリニューアル後の効果的な活用		
1-2 常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数	年間の総観覧者数	リニューアル前 40,000人/年 リニューアル後 60,000人/年	※第4期中に常設展リニューアル工事にともなう閉室期間を含むため目標値がリニューアル前後で異なる
		観覧者のリピーター率	過去1年以内の利用経験者の占める割合		
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%	※第4期中に常設展リニューアル工事にともなう閉室期間を含むため考慮が必要
		展示替え回数	常設展の展示替えおよびテーマ展示の開催回数	リニューアル前 5回/年 リニューアル後 7回/年	※常設展リニューアル前は部門展示、トピック展示を含む
		展示室内の改善・修繕の実施状況	展示室内の設備等改善・修繕状況および展示補助具の追加・改善状況		展示替えは除く
1-3 魅力ある企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数	1日あたりの観覧者数	自然 250人 総合 150人 人文 100人	開催日数の長短の差が大きいため1日あたりの観覧者数とする※第4期中、常設展リニューアル工事にともない企画展示室が使用できない期間を含むため考慮が必要
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%/回	
		展示への注目度	マスコミ報道等露出件数	5件/回	展示内容が取り上げられた場合
		企画展の検討状況			
1-4 多様な展示の開催促進	企画展以外に特別陳列等の多様な展示の開催をすすめます。	特別陳列等の開催回数	企画展以外の主催展示の取り組み回数	2回/年	常設展コピー等における展示を含む
		特別陳列観覧者数	1日あたりの観覧者数	自然 300人 総合 200人 人文 100人	開催日数の長短の差が大きいため1日あたりの観覧者数とする
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%/回	特別陳列のみ
		展示への注目度	マスコミ報道等露出件数	5件/回	内容が取り上げられた場合
		特別陳列等の検討状況			
1-5 他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展、館外での移動展、パッケージ展示の貸出等により、各種の展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。また、他機関との共同による展示を検討、実施します。	文化の森内での共催展の開催回数	博物館占有スペース以外を利用し、当館の関わりが補助的なもの	1回/年	
		移動展等館外での展示の開催回数	文化の森外の博物館等において当館を主催者に含む展示の開催回数	2回/年	「パッケージ展示の貸し出し数」を含む
1-6 展示解説等の推進	図録や解説書の発行、学芸員や受付案内員による展示解説等により、観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況	年間の刊行件数		
		展示解説等の実施状況	展示の理解を支援する各種の活動の実施状況		
		展示解説シート等の配布・設置状況	展示解説シート等の配布、追加状況		
1-7 県民などとの協働による展示の推進	県民などとの協働で、より魅力ある展示を目指します。	協働の実施状況			

(2) 普及教育

徳島の自然や歴史，文化についてだれもが楽しく体験し，学ぶことができる多様な学習機会を創り出すことにより，学校教育の支援や生涯学習の推進に取り組みます。

(使命：「知」知と出会う博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	県民のニーズに対応した多様な普及行事を企画し、多様な学習機会を創りだします。また、移動講座等のアウトリーチ活動にも積極的に取り組みます。	普及行事実施回数		70回/年	
		普及行事参加者数		5,000人/年	
		参加者の満足度	事後アンケートにおける満足回答者の割合	満足した者の割合 80%	
		アウトリーチ活動数	他館との共催による普及行事（展示を除く）	5回/年	移動展の展示解説1件も1回とする
2-2 学校教育支援事業の推進	学校への資料貸出や出前授業、また博物館での授業や教員研修、職場体験、遠足等を受け入れ、学校教育を支援します。	支援事業案内パンフレット配布状況		県内全教員 (小・中・高)	
		出前授業件数		出前授業15件/年	
		館での授業件数			
		資料貸出件数		資料貸出10件/年	
		教員研修件数			
		職場体験件数			
		遠足件数			
		学校の満足度	出前授業等実施後の満足度	80%	
2-3 普及的記事の執筆推進	身近な自然や歴史、文化に関する理解を手助けするため、雑誌等への解説記事の執筆をすすめます。	普及的記事の執筆数	年報「調査研究事業」本文に掲載されている一般著述数	40件/年	
		博物館ニュース発行回数		4回/年	
2-4 県民との協働による普及行事の推進	県民の力を借りて、より魅力ある普及行事を推進します。	県民との協働による普及行事の実施状況			県民からの協力を受けた行事を含む
2-5 だれもが参加しやすい普及行事の取り組み	幼児や外国人、障がい者などさまざまな人が参加できるように取り組みます。	だれもが参加しやすい普及行事の取り組み状況			

(3) 調査研究

徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究および博物館学的調査研究を、県民のみなさんおよび関連機関と連携しながらすすめ、新たな事実や価値の発見に努めます。また、その成果を博物館の展示や普及教育等の活動へ還元し、可視化に努め、地域の魅力を引き出すよう努めます。

(使命：「探」地域の魅力を探る博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
3-1 調査研究活動の推進	徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究および博物館学的調査研究を積極的にすすめます。	課題調査実施状況	課題調査として予算化された研究テーマ	2件/年	
		個別調査研究の実施状況	課題調査以外の研究テーマの実施状況		
3-2 外部研究機関等との連携の推進	他の博物館や大学、研究団体、学会、研究者との共同研究を積極的にすすめます。	共同研究件数	他機関やアマチュア研究者との研究件数	10件/年	人的・予算的規模の大小は問わない
		共同研究プロジェクト件数	上記のうち予算的措置を伴う共同研究の件数	3件/年	科研費プロジェクト等の研究分担を含む
3-3 県民参画型調査研究の推進	博物館の研究活動に県民のみなさんが参画できるようなプロジェクトを企画・実施します。	県民参画型調査の件数		2件/年	
3-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的および民間の研究助成金等を獲得し、研究活動の推進を図ります。	公的な研究助成金の申請・採択件数	科学研究費補助金など公的機関による競争的研究資金	申請4件・採択1件	科研費プロジェクト等の研究分担を含む
		民間の研究助成金の申請・採択件数			研究分担等を含む
3-5 調査研究成果の公表	博物館の調査研究の成果を学術論文や学会発表、研究報告書の出版、マスコミなどへの資料提供を通じ公表します。	学術的著述数	年報「調査研究」本文の学術的著述の件数	24本/年 (査読付き4本/年)	学芸員数×年2本
		学会・研究会での発表件数	学会や研究会での口頭・ポスター発表の件数	24件/年	学芸員数×年2回
		マスコミへの資料提供件数	5-1の資料提供件数のうち調査研究に係わるものの件数	3件/年	

(4) 資料の収集・保存と活用

徳島および関係地域の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんの協力のもと、さまざまな手段で継続的に収集します。集めた資料は「みんなの宝」として整理・保管し、未来に伝えます。収集した資料は、調査・研究や展示で利用するほか、他の博物館や研究者などへ積極的に貸し出しや提供を図り、さまざまな形で活用します。

(使命：「伝」未来にまもり伝える博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
収集					
4-1 継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集をすすめ、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数	前年度の収蔵資料点数実績+20,000点（年4,000点×5年）	550,000点	
		新規資料増加点数		4000点	
		採集資料件数		20件/年	
		購入資料件数		3件/年	
		寄贈資料件数		100件/年	
4-2 寄託資料の受入の促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託を受け入れます。	寄託資料件数			
		新規寄託件数		3件/年	
4-3 文献資料の充実	資料を活用するうえで不可欠な文献資料の充実に努めます。	図書冊数	収蔵図書の総冊数（雑誌類を除く）		
		新規受入図書冊数		140冊	
		寄贈図書冊数		40冊	
		購入図書冊数		100冊	
		購入雑誌タイトル数			
保存					
4-4 収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録をすすめるとともに、資料を適切に管理し、活用を図るうえで不可欠なデータベースの整備を図ります。	収蔵資料DB登録率	(DB登録点数/収蔵資料点数)×100	50%	
4-5 資料の安全な保存	薬剤の適切な使用と、収蔵庫等の資料保存環境における定期的な点検・清掃作業等を組み合わせて、資料保存に取り組みます。	燻蒸の実施	燻蒸回数	3回/年	
		収蔵庫点検	点検回数	12回/年	チェックリストに基づく点検
		展示室点検	点検回数	12回/年	チェックリストに基づく点検
		企画展示室・歴史民俗収蔵庫の空気環境調査 新たな防虫・防菌対策の検討	適正な空気環境の維持 検討実績		
4-6 収蔵スペースの確保	収蔵資料の増加に伴い、不足しがちな収蔵スペースの確保のための工夫をします。	収蔵スペースの状況および他館の情報収集等			
活用					
4-7 展覧における利用促進	収蔵資料の展覧における利用・公開の促進を図ります。	展示利用点数	寄託資料の利用も含む		
		常設展での利用点数			
		常設展以外の展示での利用点数			
4-8 貸し出し等の促進	貸出しや提供などによる収蔵資料の活用を図ります。	資料特別利用等件数	学校貸出し（2-2学校への資料貸出件数を参照）を除く	60件/年	
4-9 資料収集保存活動に対する理解の促進	積極的な情報発信を行うことにより、資料収集保存活動に対する理解の促進を図ります。	マスコミへの情報提供・ホームページへの掲載・記事執筆など			

(5) 情報の発信と公開

博物館活動についてのさまざまな情報をより多くの人に知ってもらい、博物館を有効に活用できるように努めます。多様なメディアを通じて情報を発信し、積極的に県民との対話をすすめます。第4期は、だれもが博物館の情報を、より利用できるような環境づくりを目指します。また、常設展のリニューアルの進捗状況や広報など、タイムリーな情報発信に努めます。

(使命：「連」県民とのつながりを大切にする博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
5-1	マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供しよう努めます。	資料提供件数	マスコミに対して資料提供を行った数(月間催し物案内を含む)	30件/年	
			マスコミ取材報道件数	新聞等が取材し、報道した数	100件/年	印刷メディアに限る(新聞・雑誌等)
			マスコミ出演等件数	学芸員がマスコミに出演した数	15件/年	
5-2	広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段や発送の新規開拓	新たに開拓した広報手段		
			広報関係出版物発送状況	年間催し物案内、月間催し物案内、ニュース等の発送件数および発行回数		
			年間催し物案内発送件数(発送回数)		600件(1回)/年	
			月間催し物案内発送件数(発送回数)		各80件(12回)/年	
			博物館ニュース発送件数(発送回数)		各1,100件(4回)/年	
5-3	インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HP総アクセス数	HP(全ページ)へのアクセス総数	9,000,000件/年	
			HPの新規および更新したページ数	新たに作成したり更新したページの数	70ページ/年	算定の都合上更新ページ数も含む
			HPの内容の更新頻度	内容が更新された回数	月3回以上	
5-4	SNSによる情報発信	情報交換の推進のためにSNSによる情報発信を促進します。	Facebookの更新数	内容が更新された回数	80回/年	
5-5	だれもが情報にアクセスできるホームページづくり(ユニバーサル視点)	子どもから大人まで、さらに外国人など、また、パソコンだけでなくスマートフォンなどでも、さまざまな人が情報にアクセスできるようにします。	HPのスマートフォン等への対応	スマートフォンなど新型端末への対応状況		
			HPの多言語対応	英語など日本語以外の対応状況		
			HPの見やすさや色の検討	文字の大きさを選択できたり、テキスト読み上げツールや見やすい配色などへの対応状況		
			デジタルアーカイブ	整備状況		
5-6	常設展のリニューアルに関する情報発信の促進	展示更新の進捗状況を積極的に発信し、完成後はその広報に努めます。	展示更新に関する発信状況	発信件数		FB、HP、資料提供などの総件数

(6) 県民協働・参画

県民のみなさんと一緒に活動することにより、県民の自主的な学びや地域活動の活性化を促進するとともに、だれもがお互いにつながる拠点となることを目指します。

(使命：「連」つながりを大切に、だれもがつどえる博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
6-1	友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	友の会会員数	友の会（個人・家族）の会員総数	250人/年	H30年度の会員数から増加を目指す
			個人会員			
			家族会員			
			会員の継続率	当該年度継続率	前年度会員の70%	
			個人会員			
			家族会員			
			友の会行事実施回数		6回/年	
			展示利用率	観覧者として入館した会員の割合	50%	
			個人会員			
			家族会員			
			延べ利用者数	観覧者として入館した会員の延べ人数		
			個人会員			
			家族会員			
		会報の発行回数		2回/年		
6-2	公募ボランティアの協働推進	県民参画による行事を推進します。	公募ボランティア登録者数			イベントボランティア登録者数、みどりのサポート隊登録者数など
			公募ボランティア活動回数（全体会・班会合、イベント）	会合等を含む活動の延べ日数		イベントボランティア活動回数、みどりのサポート隊活動回数
			企画運営型行事等件数			
6-3	各種事業での県民協働の推進	協働による魅力ある展示や普及行事および調査研究活動を推進します。	県民などとの協働による展示の実施状況			1-6の再掲
			県民参画型調査の件数		2件/年	3-3の再掲
			県民との協働による普及行事の実施状況			友の会、公募ボランティア、その他を統合して記録する

(7) シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じてさまざまな資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し、県民の生涯学習を支援するとともに、自治体や地域社会、学会等の事業推進に貢献します。

（使命：「連」つながりを大切にし、だれもがとどえる博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
7-1 レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか、手紙や電話、メールでの質問等に親切に対応し、利便性を高めるよう努めます。	レファレンス件数	レファレンス記録DBにおける記録件数	500件/年	
		周知状況	レファレンス業務の周知取り組み状況		
7-2 講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研修会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等件数	小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数		小中高への出前授業は「2-2 出前授業件数」を参照
		講演会等の受講者数			
7-3 自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	自然環境保全や文化財保護など自治体やその他の機関・団体の委員会委員やアドバイザーとして、専門知識の提供を行います。	委員等受託件数	学会・博物館関連団体の委員等を除く		
		機関・団体等への協力状況			
7-4 大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受託、学生・院生の研究指導、博物館実習生の受け入れ、学芸員養成科目の開講等により、大学教育に寄与します。	非常勤講師受託数			
		学生・院生指導人数			
		博物館実習生受入人数			
		学芸員養成科目受講者数	3科目（博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論）の延べ受講者数		
7-5 学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受けるなど、学会等の活動に貢献します。	学会等開催数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数		
		学会等役員受託数	学会・研究会における役員・委員等の受託数		
		学会等事務局受託数	当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		
7-6 博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として、博物館施設への助言を行うとともに、県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携促進のために尽力します。	博物館関連団体委員等受託数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数		
		博物館関連団体加入数	当館が加入している博物館関連団体の数		
		連携事業等の実施数	移動展・移動講座や他館との共催事業、資料保存等の支援の実施回数		

(8) マネージメント（経営）

利用しやすい博物館とするための施設の改善，博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討，職員の意識改革と資質の向上，適切な博物館評価システムの確立等により，博物館活動の改善と活性化，利用者の増大を図ります。

（使命：効率的でバランスのとれた運営）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
8-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	わかりやすい案内表示、バリアフリー化や安全対策等に配慮し、高齢者、障がい者や外国人にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検・改善を行います。また、講座室の貸し出しを行い、博物館利用の機会を増やします。	点検・改善の状況			
8-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	博物館活動の活性化と広報の強化により、県内および近隣地域での博物館の認知度を高め、博物館利用者の範囲の拡大と利用者増に結びつけます。	県民の博物館利用状況			
		県外利用者の割合			
8-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等によるさまざまな博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について検討します。	ボランティア導入事業件数			
8-4 設置者による理解および外部資金の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する県および県教育委員会の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。また、各種外部資金の獲得に努め、より効率的な運営を目指します。	博物館予算の状況			
		外部資金獲得数	申請数、獲得数		
8-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震・津波等の自然災害や火災、盗難、けが人の発生等に備え、文化の森他館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。また、県内で発生する災害に対して、県内博物館どうしの救援態勢や相互援助の体制を整備するよう検討します。	防災訓練の実施状況			
		危機管理体制の整備状況 地震、津波等広域災害時の救援体制確立	収蔵庫の耐震化措置		
8-6 職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の社会的役割および当館の使命を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう、意識改革と資質の向上を図ります。				
8-7 博物館評価システムの構築	博物館活動の中期活動目標に基づき自己点検評価、博物館協議会による外部評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを確立するとともに、来館者アンケートを活用して博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況			
		自己点検評価の状況			
		外部評価の状況			